

# つながる力

《No. 23》



## 戦車が市中を走る！ こんな日常を望みますか？



自衛隊の“戦車”、生活道路を走る  
日米演習中の沖縄・与那国島  
与那国町の県道を走る自衛隊の戦闘車=17日午後3時ごろ  
2022年11月17日 15:18  
沖縄タイムス より



戦車が走る10キロの一般道、赤信号で止まります  
市街地をゆっくり進む陸自の戦闘車両に手を振る親子  
(5月30日、千歳市で) 2022・06・02 読売新聞 より

南から北から「戦車が市中を走る」キナ臭い情報。読売新聞は「手を振る親子」と、あたかも歓迎しているようなキャプション。他方、琉球新報は11月12日付、撮影を制し画像データの削除を要求されたと報じています。こんな物騒な暮らしを望みますか？

### 《目次》

- 《沖縄県本部町》 「塩川ディ 現場からの報告」 . . . . . 仲宗根須磨子 . . . 2~3
- 塩川・安波栈橋の闘いを支えよう . . . . . 大谷正穂 . . . 3
- 塩川の日~抵抗と自治 . . . . . 大谷正穂 . . . 4
- 《沖縄県本部町》 島ぐるみ会議、沖縄県北部土木事務所と交渉・北上田毅ブログから . . . 5~6
- ブックレット『また「沖縄が戦場になる」って本当ですか』（刊：命どう宝の会） . . . . . 6
- 《広島県》 11. 19「NO! MORE 沖縄戦・命どう宝の会」広島をつどい・新田秀樹 . . . 7
- 《愛媛県》 「アメリカが作り出す戦争」を知り、世界の市民と連帯する . . 阿部悦子 . . . 8~9
- 《東京都》 12. 18 北上田毅さん講演会を開催 . . . . . 毛利孝雄 . . . 10
- 《沖縄からの便り その17》 「司法の墮落」極まれり! . . . . . 浦島悦子 . . . 11
- インフォメーション . . . . . 12

写真提供 阿波根美奈子 北上田毅 阿部悦子 毛利孝雄

# 「塩川デイ」現場からの報告

本部町島ぐるみ会議共同代表 仲宗根須磨子



第1回「塩川デイ」が11月21日、22日の両日、行われた。普段は淋しい塩川港に多くの人が集結し、両日合わせて320人余りの参加があった。

1日平均600～650台、抗議行動をする人がいない時には、1000台近くのダンプが入る塩川港に11月21日は206台、11月22日は238台にとどめた。



抗議行動参加者の車が、ダンプの間に挟まれてなかなか進めず、塩川港内に入れない中で、辛抱強く待ちながらハンドルを握る人、整然と牛歩をしながら、辺野古以外の離島航路の業務等のダンプは止めずに通す参加者。トラックの台数をチェックする人。マイクを握り歌う者。トイレの送迎車を担当する人。少し離れた所で救護班として控える人。手づくりのおやつを差し入れる人等・・・。

現場にいる全員が、それぞれの持ち場で、それぞれの役割を果たし2日間の塩川デイを無事のりきった。塩川港における抗議活動のルールを皆が守り、実行したことで、事故もなく、怪我人もなく、逮捕者を出すこともなかった。このことは実に見事であり、今後の活動においても一番大切なことである。弾圧されることなく運動を続けてゆくためにもルールを守りながら、しなやかに、したたかに展開していくことが大事だ。参加者の皆様の秩序ある行動に心から感謝する。

しかしながら、第1日目に新たな問題が発生した。北部土木事務所の職員(4～5名)が、機動隊といっしょになって、「速やかに移動してください。」「立ち止まらないでください。」と言葉で市民の排除に加わった。前代未聞のできごとに、その場で市民は抗議をした。

塩川港内は、一般の公道とは違い、道交法は適用されない。誰がどこを歩いても自由である。歩行者が優先なので合法的に牛歩をしている人の安全を守るのが警察や防衛局の仕事である。

にもかかわらず、機動隊員はゆっくり牛歩している人の腰に手を当て「速やかに移動して下さい。」と後ろからグイグイ押してくる。その行為は、はたから見れば親切に補助しているように見えるが、とても危険な行為である。押されたことのある人には実によくわかる。特に年配者にとっては前につんのめりそうになり、大怪我につながりかねない。そのような危険な行為を注意するのが、県職員の仕事であるにもかかわらず、防衛局や警察等と一体となって、県民の合法的な行動を押しさえつけることは許されない。



このことについては、後日、北部土木事務所に対し、文書でもって謝罪し、今後の安全管理の対応についてもどうするのか明記せよと申し入れた。

「塩川デイ」の反省会に於いて、意外にも「とても楽しかった。」という人が多かった。前述のよう







# 本部島ぐるみ会議が11月29日、 沖縄県北部土木事務所と交渉

22.11.29 発信された北上田毅さんのブログ「チョイさんの沖縄日記」よりご本人の了承を得て抄録転載しました。

11月29日は朝から名護へ行き、本部町島ぐるみ会議の沖縄県北部土木事務所（以下、北部土木）との交渉に参加した。



22.11.29 沖縄県北部土木事務所交渉

我々本部町島ぐるみ会議は毎月、辺野古への土砂搬送に使われている本部塩川港の管理問題について北部土木と交渉しているが、この日の交渉は、11月21日の塩川デーの際、北部土木事務所職員が県民に「速やかに歩いて下さい」「立ち止まらないで下さい」等と迫った問題が中心となった。

本部町島ぐるみ会議は、事前に以下の質問・要請書を提出した。

## 11月21日、本部塩川港での北部土木職員による県民への妨害行為を謝罪すること

11月21日、本部塩川港では本部町島ぐるみ会議の呼びかけで「塩川デー」が開催された。多くの県民が駆け付け、辺野古埋立て土砂を搬送するダンプトラックの前を横断する等の行動を行った。その際、北部土木の職員数名が警察官と一緒に、県民に対し「速やかに移動して下さい」「立ち止まらないで下さい」と迫った。県職員のこのような行為は、防衛局や警察等と一体となって県民の合法的な抗議行動・表現行動を押さえつけ、辺野古埋立てを促進させようとするものであり許されない。

辺野古新基地建設反対運動の中で、県職員がこの

ように露骨に県民に対峙したことはなく、極めて重大な事態である。当日の北部土木職員の行為について、謝罪を求める。

この質問・要請書に対して、北部土木は「21日は6名、22日は4名の職員が塩川に行った」「危ないですよ、危険ですよ」と声をかけたことを認め、「指摘のような意図ではなく、港湾内での安全の確保等のために行った」と弁明した。



白いヘルメット姿が沖縄県北部土木事務所職員

この回答に、参加者からの批判が相次いだ。

- ・「『速やかに歩いて下さい』や『立ち止まらないで下さい』と迫ることは『安全対策』ではない。機動隊と同じ行動で、結果として県民の抗議行動を止めさせるためのものではないか？」
- ・「安全対策というなら、歩行者だけに注意するのではなく、ダンプ運転手への指導を何故しないのか？」
- ・「これまで防衛局の警備員が抗議する県民を囲い込み、大量のダンプ通行のために道路に穴が開き、石が飛びケガ人が出たこともある。その時、安全対策のため防衛局や業者を指導しなかったではないか？」

こうした追及に、所長らは「安全対策」という言葉を繰り返すだけで、具体的な回答は何もなかった。

特に、21日、2台の違法ダンプトラックがあったことが問題となった。1台は車検証不携帯、もう1

台はブレーキランプ切れた。我々が県警に指摘し、これらの車両は県警によってしばらく港内に止められた。これらの違法ダンプは安全上も問題となるものだが、北部土木の職員らは現場で県警や防衛局とも話をしていたにもかかわらず、全く知らなかったという（所長は最終的に「防衛局に業者を指導するよう伝えます」と回答した）。「安全対策」の対象は、まず業者や防衛局なのだ。

時間ほどの交渉で、所長は最終的に「当時の対応をもう一度、洗い直したい」「やり方がどうだったかは、土木としても検討する」と約束し、来月に再度、交渉することとなった。

なお、前衆議院議員の屋良朝博さんも11月21日、塩川港の行動に参加し、北部土木事務所職員の行動を見ていたというので、今日の交渉にも参加された。

## ブックレット『また「沖縄が戦場になる」って本当ですか？』

刊 ノーモア沖縄戦 命どう宝の会 (nomore-okinawasen.org) 1冊：500円



### 「南西諸島に攻撃拠点」 「住民巻き添えの可能性」

目を疑うような衝撃的な見出しが昨年12月24日の沖縄二紙の一面に踊りました。対中国戦略のための「日米共同作戦」をスクープした、共同通信の石井暁さんが沖縄県民の前で、二度と沖縄を戦場にしないという強い使命感と記者生命をかけて明快に語った講演を完全再現収録しました。ぜひ多くの方々が手に取って読んでいただき、沖縄戦が目の前に来ている窮状を知って、沖縄、日本が戦場にならないために共につながっていきましょう！！

### 【ご注文に際して】

ブックレットの注文ですが、大変反響が大きく、多くの注文を頂いております。在庫不足などにより時間がかかってしまうという事態が起きています。そこで注文フォームを作成しました。注文はこちらで一元化致しましたので、必要事項を記入の上、お送り下さい。

⇒ こちらをクリックして下さい。 <http://nomore-okinawasen.org/3226/>

(「ノーモア沖縄戦 命どう宝の会」メールマガジンより)

注文は、名前・郵便番号・ご住所(建物名まで)・メールアドレス・注文冊数)をご入力下さい。

注文フォームからうまく送信できない場合は、[info@nomore-okinawasen.org](mailto:info@nomore-okinawasen.org)へご連絡下さい。

#### ■ 送料について現在、以下の金額でご案内しております。

8冊までは、180円～185円 9冊のみ370円 10冊以上からは送料無料。

#### ■ お支払いについて

ブックレットにお支払額が記された振込用紙を同封いたします。下記までお振込み下さい。

(振込先) 【ゆうちょ銀行から振込される場合】

記号 17040 番号 01742091 名義 アラカキヒトミ

【ゆうちょ銀行以外の金融機関から振込される場合】

店名 七〇八(ナナゼロハチ) 店番 708 預金種目 普通預金

口座番号 0174209 名義 アラカキヒトミ



# 南西諸島を戦場にさせないために 11.19「ノーモア沖縄戦 命どう宝の会」広島のつどい

広島と沖縄をむすぶドゥシグワー事務局 新田秀樹

12月16日、「国家安全保障戦略」「国家防衛戦略」「防衛力整備計画」を閣議決定した。その核になるのは防衛費の増額と防衛力の拡大だが、琉球弧へ新設する基地への敵基地攻撃能力を持つミサイル配備など憲法九条を無視した大軍拡である。

琉球弧の島々で行われていた大規模軍事演習「キーンソード23」最終日の11月19日、広島平和記念資料館会議室で「ノーモア沖縄戦 命どう宝の会」共同代表の山城博治さんを招いて広島のつどいを開催しました。

山城さんから、今年2月に発足したこの会は、オール沖縄会議が中心になり、辺野古新基地建設反対の取り組みを進めてきたがそれでは現在の情勢では不十分で、琉球弧の島々で強化される自衛隊基地は再び沖縄を戦場にする懸念がある。

「琉球弧」という文言にもこだわり、東京（中央政府）から見れば南西諸島かもしれないが私たちは琉球弧と呼びたい。かつて沖縄戦で、国体護持のための捨て石にされ、国内で唯一の地上戦が行われ、住民を巻き込み多くの犠牲を出した。この悲劇を再び起こさせはならないと経過を報告した。

今、与那国島、宮古島、奄美に基地や弾薬庫がつくられ、石垣でも工事が進み、馬毛島は南西諸島防衛の拠点基地の計画が動き出している。くわえて、「中国脅威」を前面に出して「南西諸島防衛強化」を名目に九州各地の基地も強化されている。

米の対中・対ロ戦略で10月、「国家防衛戦略（NDS）」を発表して、中国を「最も重要な戦略的競争相手」としている。米軍の新たな戦略の「遠征前進基地作戦（EABO）」によって、

琉球弧の島々が戦場になることが想定される。EABOでは、米軍は有事になれば約40の島々に臨時拠点を置き、戦闘を展開していく。拠点の要件としてインフラが整備されていること、つまり有人島であるとしている。米軍は攻撃目標になるため、常設の拠点を置かずに移動しながらミサイル攻撃を行うというもので、後に残った住民のことは考えていない。

閣議決定した防衛三文書はNDSの方針に沿った内容になっている。しかし実際に台湾有事が起こったにしても米国は「一つの中国」の基本方針は変えておらず、同盟関係ではない台湾有事に参戦する可能性は低い。一方でバイデン民主党政権に代わって、台湾海峡への米軍艦の航行が増え、台湾への武器の売り込みを加速している。

このような状況の中、山城さんからは、「日米の双方に、冷静に状況を判断し戦争を回避するための世論喚起を図り、大衆運動を作る。特に沖縄県内における運動は重要で力強い全国発信が必要となっている。また日米が連携する運動をつくっていくことが肝要である」と述べた。

暴走する岸田政権、この動きを止めるためにも、選挙区である地元広島の運動は重要になる。防衛費増と軍拡反対の世論形成のために奮闘したい。（2022, 12, 18）



# 「アメリカが作り出す戦争」を知り、 世界の市民と連帯する



## ～ 谷山博史さんの講演を聞いて ～

辺野古土砂全協共同代表 阿部悦子

22年2月、松山で山城博治さんの講演会を開いたことをきっかけに発足した「ノーモア沖縄戦えひめの会」。学習会を続けながら9月には与那覇恵子さん、10月には谷山博史さんを沖縄からお招きして講演会を開催した。(次ページ参照)

世界の戦争と紛争の真っ只中で武器による被害を受ける住民の側に立って長年支援して来られた谷山さんや”日本国際ボランティアセンター(JVC)”の方々のお働きに深い敬意を持った。戦争・紛争の”現場”を、住民と共にいて経験し、理解する人々について一般のメディアはほとんど伝えていないことを知った。その多くの戦争が「アメリカが作り出した」という事実を改めて驚きを禁じえなかった。それらの国々は、カンボジア、イラク、コソボ、アフガニスタンなど。(現在は日本を使っての対中国包囲網だ！ウクライナの戦争も準備した)

谷山さんが4年以上住まわれたアフガニスタンへの「アメリカの対テロ戦争」について。先般この戦争にアメリカが負けて、自ら作った傀儡政権を見捨てて、アフガニスタンから脱出したことが、私たちにどれだけ伝わっているか？第一アメリカが負けた事実さえ我が国のマスコミは伝えていない。

谷山さんはちょっと面白い、印象に残る沖縄のオバアの言葉を紹介された。「アメリカを撤退させたタリバーンは偉いねえ」と言われたとのこと。戦前から基地問題でアメリカによる甚大な被害を受け続けてきた沖縄の現実を嘆かれてのことなのだろうけれど、沖縄では庶民の側から素朴に、「本質」に迫る言葉が語られているのだ。

アメリカのポチでありつつ、日本もまた自国の利益を求めて世界に出て行っているいくつもの事実についても、私をはじめ初めて知る人が多かったのではないかな。

世界は今、環境破壊と資源・食糧の枯渇に気付いてそのための争奪戦が始まっている。争奪されようとしているのは力のない、これまで自給自足で生きて来た貧しい国の人々だ。多くがアフリカ大陸だと地図を示してくださった。

このような中で食料自給率の低い我が国は、例えば谷山さんが関わったアフリカ大陸南方のモザンビークの農地(その面積は日本の農地の3倍)を狙って政府が動き大企業の進出を助けていると。しかもモザンビークの農民にはその情報の一切を知らせずに…。

彼らが「日本国際ボランティアセンター」に連絡をして来て、日本政府にその情報の開示をしてほしいと求めたことをきっかけに、日本政府のあからさまな動きは封じることが出来たが、しかし、今後の監視が必要だという。安倍元総理の「戦争ができる国」への傾倒は、経済進出するために必要な軍事力を付けて派兵する道筋をつけるためのものだったことも、最後に”トーク”で登場した高井さんから詳細に語られて、さらに明らかになった。「日本の土地を外国が買い漁っている」とナショナリズムを煽る物言いがはびこる中で、私たちは私たちの国が海外で何をしているのかを知らなければならない。「ノーモア沖縄戦えひめの会」の度重なる学習会で「真実は歴史を学ばなければ分からない」と気付くのだが、谷山さんのお話を聞いて、「現場を深く知らなければ真実は分からない」と、重ねて思った。(22.12.21)



27日に営まれる安倍晋三元首相の国葬を前に、安倍政権や自民党政権の問題点を検証する講演会が24日、松山市堀之内の市民会館で開かれた。沖縄県の名桜大非常勤講師の与那覇恵子さんが長期政権の弊害を指

## 国葬「前代未聞の問題」 松山で反対訴える講演会



安倍政権の問題を指摘する与那覇恵子さん—24日午後、松山市堀之内

摘、国葬への反対や平和維持への団結を呼びかけた。「ノーマア沖縄戦・えひめの会」が主催し、市民ら約50人が参加した。与那覇さんは同大の元教授で東アジア共同体琉球・沖縄研究会共同代表も務め

る。講演では、安倍政権が米軍（米軍）を重視し、辺野古新基地建設を強制的に推進したなど指摘。金融緩和を柱とする経済政策「アベノミクス」は、日銀による国債購入で「景気が良くなった気分」を演出した一方、国民の実質所得は減少したなどと批判した。支持率が下がらなかった理由に、政治への関心の低下や危機感の欠如などを挙

げた。国葬問題は「前代未聞の問題なのに国民が慣れってしまった」と警鐘を鳴らした。現在の自民党政権の対中政策にも触れ、日米が自制的な行動をすることで平和を維持するよう求めた。参加者からは「自分たちの戦争に対する危機感が薄まっていることが問題」などの感想が聞かれた。

(松本佑介)

22.9.25  
愛媛新聞

## リモート学習会 「大軍拡と増税は 何のためか」

～ 琉球弧と日本列島を  
戦場にしないために ～

日時：1月22日（日）13：30～

開催方法：リモート《ZOOM》

講師 高井弘之さん

(ノーマア沖縄戦・えひめの会運営委員)

参加申込メールアドレス：

ksueda@nifty.com (末田一秀)

参加申込された方には後日、招待状とともにZOOMのURLをご案内します。

主催：辺野古土砂全協

## 台湾有事 対話で回避を



対話の重要性を訴える谷山博史さん(右)とノーマア沖縄戦・えひめの会運営委員の高井弘之さん  
松山市堀之内

同プロジェクトは、沖縄 支援活動を行う非政府組織の大学やメディア関係者などが呼びかけ10月に発足。NTIA(センター)の前代表理事(現顧問)などを歴任。アフガニスタンやイラクの機運醸成に努めている。クなど人道支援をする傍ら、対テロ戦争のほが米

### NGO前代表理事・谷山博史さん(沖縄) 松山で講演

中国が統一のため台湾に武力介入する「台湾有事」に懸念が深まる中、「ノーマア沖縄戦・えひめの会」主催の講演会がこのほど、松山市で開かれた。講師は「台湾有事」を起させない・沖縄対話プロジェクトの呼びかけ人兼実行委員の谷山博史さん(64)で、沖縄県名護市。立場や国境を超えた市民の対話、交流が有事回避の大きな力になると訴えた。

## 「戦争の足音」危機感 市民交流 大きな力に

軍の攻撃で一般市民が死傷する「戦争の現実」を思い知らされてきたという。台湾有事では、米軍が南西諸島(沖縄、鹿児島県)に軍事拠点を置く日米共同作戦計画の原案が明らかにするなど、同諸島の戦場化が危惧されている。谷山さんは「台湾有事の事態は米中の覇権争い。沖縄は前線の前線に置かれてしまっている」とし、沖縄と周辺での日米(自衛隊と米軍)の大規模な演習頻発「や防衛費の大幅増額などを挙げ、「戦争の足音」に危機意識をにじませた。とりわけ、安全保障上の重要施設周辺などを対象に9月に全面施行された「土地利用規制法」の運用を危惧。市民の「調査や監視」が進み、萎縮させる恐れのある「ものを言わせない法律」だと語気を強めた。一方、武力紛争を防ぎ、早期解決を図ろうとする市民の国際連携に触れ、2008年にNGOなどが千葉県で開いた「9条世界会議」

の議論から、鍵になる非暴力・非軍事的アプローチを紹介した。紛争を防止ポイントは、「紛争・戦争の原因のメカニズムや、戦争のない世界が達成可能なことを教える平和教育」「紛争前の早期警戒と国際社会の関与」「市民の対話スペースづくり」と、国際社会の中立の仲介者巻き込み」と提示。紛争への国際的な軍事介入は「多国間の中立の機関」が迅速・効果的にすべきだと指摘した。「非暴力の紛争解決で先例とビジョンを提示している」として、日本が「憲法9条の重要性にも言及した」。

同プロジェクトは、今月末まで「CAMPFIRE(キャンプファイヤー)」「サイトクラウドファンディング」も実施している。(仙波朋子)



谷山博史さんの講演を聞く参加者

22.11.10  
愛媛新聞

# 12.18 北上田毅さん講演会を開催 辺野古新基地建設の現状と南部地区の土砂問題 — 問われる玉城県政の姿勢

首都圏グループ 毛利孝雄

土砂投入開始から4年。講演会の前段、浦和駅頭で街宣と「オール沖縄会議」請願署名の呼びかけを行いました。以下、北上田さんの講演要旨です。

## 1. 辺野古工事の現状

この4年間の土砂投入は14%。辺野古側が進んでも、大浦湾側の用途は立たず工程は縮まらない。11月の塩川ディでは、現場での抗議行動に結集できれば工事は止められることを示した（県北部土木事務所との交渉については別掲）。



「沖縄タイムス」2022年12月14日

いま辺野古側埋め立てと並行して、工所用仮設道路と弾薬庫の再編整備工事が進んでいる。仮設道路は完成すると、土砂搬入は早まることになる。辺野古弾薬庫は、核密約で核兵器持ち込みが明らかになった施設で、米軍基地設置基準の高度制限にも違反する。今回の安保3文書では自衛隊との共同使用を明記、新たに5棟増設が合意されている。

県は、「設計変更承認」審査の際、何度も米日の共同使用について質問しているが、防衛省は「考え

ていない」と繰り返した。この点は、政府が普天間代替とする辺野古新基地の性格の根本的変更であり、埋立承認の前提が崩れる問題だ。

## 2. 辺野古訴訟と問われる県の対応

この間の裁判は、中身の審査に入ることなく門前払いが続いている。現在、県が係争中の裁判は来年には全て決着する。3つの選択肢が考えられるが、玉城県政には毅然とした対応が求められる。

①県が「設計変更申請」を承認、②国による代執行訴訟、③昨年11月「不承認」とは異なる理由で再度の「設計変更」不承認。

一方で、8月に住民による新たな抗告訴訟が、高度制限区域内の原告を加えてスタートした。実質審理が行われることを期待したい。

## 3. 裁判や工事の強行で、

### 事実を隠蔽することはできない

裁判の如何を問わず「軟弱地盤」の事実は残り、現在の工法では地盤・護岸の安定性は確保できず、いずれ再度の設計変更申請が必要になる。大浦湾の環境は致命的に破壊され、工事が完了しても滑走路・護岸の沈下・傾きが相次ぎ、補修には莫大な費用と時間がかかる。普天間基地は、長期間固定化されることになる。政府の地震調査委は、今年3月この地域でのM8~9クラスの巨大地震の恐れに言及した。津波・浸水・核を含む危険物質の危険は、新たな「不承認」理由になりうる。

## 4. 1月から熊野鉾山、採掘開始の可能性

業者から公害等調整委員会の和解案に基づく開発届が提出され、来年1月から採掘が可能な状態になる。近郊を含む鉾山では埋め戻しすら行われていないものが多く、現状を放置したままの新たな開発は許されない。現地では、1月4日から抗議と監視行動が取り組まれる。(22.12.20)

沖縄からの便り

《連載 No.17》

いちやりば  
ちよーでー

## 「司法の墮落」 極まれり 地方自治を否定した 「埋立承認撤回」 最高裁判決

ヘリ基地いらない二見以北十区の会 浦島悦子

沖縄県による「辺野古埋立承認撤回」を取消した国土交通大臣の裁決は違法だと、県が裁決の取消しを求めた抗告訴訟で12月8日、最高裁は県の上告を棄却。一度の弁論も行わないまま、「県は訴訟を提起できない」「県に原告の資格はない」とした一審・二審の判決が確定した。私人(国民)の権利救済のための行政不服審査法を国(行政権力)が使った裁決が適法かどうか、その中身の判断を避けた。

松野官房長官は「沖縄県の訴えを不適法とする国の主張が認められた」と語ったが、裁判所はそんな判断などしていない。司法と行政権力が結託した茶番劇であり、「国の言うことは問答無用で従え」という脅し以外の何物でもない。故翁長雄志前知事は、県民の明確な民意が何度示されても一切無視し「粛々と」建設工事を進める政府の態度を「政治の墮落」と断罪した。それに習えば、今回の最高裁判決はまさに「司法の墮落」ここに極まれり、だ。

玉城デニー知事は判決について、「地方自治体の処分に国が異を唱え知事の判断を取消す『裁定的関与』は地方自治に反する」と述べ、「これは沖縄の問題ではなく全国どこでも起こりうる」と警鐘を鳴らした。地元メディアも「地方自治法により国と対等であるはずの地方自治体の自治権・自立権を否定するものだ」と批判した。

これまで、辺野古新基地建設を巡る沖縄県と国の訴訟は悉く、県が敗訴している。県の訴えの中身には一切触れず「門前払い」する司法の在り方は、三権分立をかなぐり捨て、民主主義と地方自治を踏み躪り、社会正義を実現する「最後の砦」としての役割を放棄した「自殺行為」としか言いようがない。

私たち新基地予定地周辺に住む住民も、県の抗告訴訟と同様、国の裁決の違法性を訴える訴訟を起こしたが、これも22年4月、那覇地裁で原告適格なしとして却下され、現在、高裁に控訴中。

埋立工事を巡り、もう一つの訴訟が進行中だ。埋立予定地の大浦湾側で見つかった軟弱地盤改良工事のための設計変更申請に対する玉城デニー知事の「不承認」について、国交大臣はまたも行政不服審査法という同じ「手口」で取消しの裁決を行った。これに対し沖縄県が提訴した3件の訴訟のうち2件について12月1日、福岡高裁那覇支部で口頭弁論が開かれ、玉城デニー知事が意見陳述した。

私たち住民も、知事の「不承認」を支持する新たな抗告訴訟(原告20人)を提起した。県(行政)よりも、基地の被害を直接受ける住民の方が原告適格を認められやすい。「原告適格」の関門を突破すれば、国の違法性を問う中身の審理に入れる。その可能性を探りつつ、同時に「墮落」した司法を糺す気概を持って取り組んでいきたい。

何より頼もしいのは、「辺野古弁護団」に結集する弁護士さんたち(今回の訴訟でも40人近い弁護士が私たち原告の「代理人」に名を連ねる)の奮闘ぶりだ。「法」という自分たちの土俵で正義を実現したいと、過去の判例やあらゆる資料を精査し、互いに議論し合い切磋琢磨しながら、全て手弁当で頑張る彼らに、私たち原告団は引っ張られていると言ってもいい。設計変更不承認を巡る住民の抗告訴訟は、那覇地裁での第2回口頭弁論が1月31日に予定されている。(22.12.16)



リモート学習会 「大軍拡と大増税は何のためか」

～ 琉球弧と日本列島を戦場にしないために ～

日時：2023年1月22日（日）13：30～ 開催方法：リモート《ZOOM》

講師 高井弘之さん（ノーモア沖縄戦・えひめの会運営委員）

参加申込メールアドレス：ksueda@nifty.com（末田一秀）

主催： 辺野古土砂搬出反対全国連絡協議会

◆ 2023年1月7日（土）

三上智恵監督作品上映会

「標的の村～風かたか～」 同時上映

「風の記憶～湯布院・日出生台 1996-2022」

16：30～ 「標的の島」 カンパ：800円

18：40～ 「風の記憶」

瓦町フラッグ8階高松市市民活動センター会議室

◆ 1月14日（土）

三上智恵監督講演会

戦争の惨禍をくり返さないために

～ わたしたちが今、問われていること ～

日時：13：30～ カンパ：800円

会場：香川県社会福祉総合センター第一中会議室

上記、2つのイベントは

主催 かがわ市民運動ネットワーク

（辺野古に基地をつくらせない香川の会）

連絡先：090-8698-2114

◆ 1月27日（金）

「建白書」10年日比谷野音集会&銀座デモ

18：30～ 日比谷野外音楽堂 集会後銀座デモ

主催：「止めよう！辺野古埋め立て」国会包囲実行委

問合せは、毛利 080-1054-0409 まで

◆ 1月28日（土）

高井弘之さん講演会 in 横浜

東アジアで戦争を呼ぶのは誰か

～ 中国包囲網・琉球弧での日米戦争計画 ～

日時：16：30～ 資料代：800円

会場：かながわ県民センター 301号

連絡先：070-6481-4362 080-6542-5329

◆ 1月29日（日）

高井弘之さん講演会 in 東京・葛飾

東アジアの平和と日本国憲法

～ だれが戦争をのぞんでいるのか ～

日時：14：00～ 資料代：500円

会場：かつしかシンフォニーヒルズ別館4階ラバンダー

連絡先：080-3566-0953（鈴木）

《高井弘之さん》



1955年生まれ。愛媛県今治市在住。

「ノーモア沖縄戦・えひめの会」運営

委員。『東アジアで戦争を呼ぶのは誰

か？—中国包囲網・琉球弧での日米

戦争計画』『「北朝鮮」をめぐる問題

の冷静な認識と理解に向けて—解放後の挑戦にとって日・

米とは何か』等、著書執筆

《辺野古土砂搬出反対全国協議会ニュース つながる力23号》 2022年12月25日

発行責任者…全国連絡協議会共同代表 阿部悦子（環瀬戸内海会議） hibi\_etsuko@yahoo.co.jp

大谷正穂（山口のこえ） masaho1954@gmail.com

編集…松本 宣崇（環瀬戸内海会議） nmatchan@ms8.megaegg.ne.jp

…八記久美子（辺野古土砂ストップ北九州） kanpanera888k@gmail.com

HPアドレス…<http://stophenoko.html.xdomain.jp/>

事務局…〒700-0973 岡山市北区下中野318-114 松本方 TEL・fax 086-243-2927

連絡先…〒794-0026 愛媛県今治市別宮町9-7-4 阿部悦子 TEL 090-3783-8332

振込先…郵便振替 番号 01750-8-144158 名義 辺野古土砂搬出反対全国連絡協議会